

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	陸拾七
所属機関名	獣医学部獣医学科
職位	講師
在籍年	3.5 年

教育の責任

教育責任として、獣医学部・獣医学科に所属し、動物衛生学や遺伝育種学を中心とした教育・研究活動を行っている。主な教育活動は、動物衛生学実習、遺伝育種学、国際生物資源学、公共獣医事情報解析実習および卒業論文研究指導である。先輩教員を手本とし、日々新たな知識と経験を積みながら責任を持って、積極的に教育・研究活動に取り組んでいる。

教育の理念

動物衛生学実習では、家畜や伴侶動物の感染症の予防・診断・管理を体系的に学ぶことが、地域の公衆衛生や食肉の安全に直結する。学生には、疾病リスクを科学的に評価し、現場で適切な衛生管理や予防対策を実践できる力を身に付けさせる必要がある。病原体・宿主・環境の関係性を理解しながら学ぶことで、感染症に直面した際に効果的な予防、正確な診断、適切な対応ができる知識と能力を身に付けることが重要である。

遺伝育種学では、遺伝学の理論に基づき、在来家畜を含む家畜の遺伝的多様性や形質改良の原理、遺伝病の予防管理を学ぶことが不可欠である。在来家畜は地域の環境に適応した貴重な遺伝資源であり、その保全と活用は安全で高品質な食肉生産に直結する。学生は分子遺伝学や統計解析を用いて家畜の特徴、能力および健康状態を評価し、育種改良、健康管理、動物福祉、遺伝資源の保全および環境への配慮も含めた総合的な判断力を身に付ける必要がある。

専門知識とウェルホスの理念を融合させ、地域および世界の公衆衛生、食の安全、在来家畜を含む遺伝資源の保全、遺伝病の予防、人の健康に貢献できる人材の育成を教育目標とする。さらに、国際交流や海外事例の学習を通じて多様な文化への理解を深め、国際的視野を持つ学生を育成する。また、科学的思考力と倫理観を備えた次世代の獣医師を育成し、知識と責任を次世代へ継承することを目指す。

教育の方法・方針

1. 動物衛生学教育

動物衛生学実習では、家畜や伴侶動物の感染症の予防・診断・管理について講義で体系的に学ぶとともに、ビデオ見学や牧場実習などの現場経験を通して、感染症に直面した際に適切に判断し対応できる能力の養成を目的とする。特に牧場実習では、家畜の飼育状況や衛生管理、感染症予防対策を観察して理解を深める。また、感染症を病原体・宿主・環境の相互作用の観点から理解し、科学的に解決策を探究する姿勢を育成する。

2. 遺伝育種学教育

遺伝育種学では、遺伝学の理論に基づき、家畜の遺伝的多様性、形質改良の原理、遺伝病の理解と予防について教育を行う。また、世界各地の家畜資源や在来家畜の特徴を学ぶことで、国際的な家畜生産や食料問題への理解を深める。さらに、分子遺伝学や統計解析を活用し、家畜

の能力や健康状態を科学的に評価する力を養うとともに、遺伝資源の保全や持続可能な畜産への応用を総合的に考える力を育成する。

3. 研究教育と態度育成

研究教育では、結果が期待と異なる場合でも科学的に受け止め、データを正確に理解する誠実な研究姿勢の育成を重視する。学生には客観的かつ論理的に考える力を養わせるとともに、責任感を持ってトラブルや予期せぬ状況にも冷静に対応できる姿勢を育む。

4. 国際交流

国際交流や海外事例の学習を通じて、動物衛生および遺伝育種の課題への理解を深め、国際的視野と柔軟な思考力を育成する。世界の家畜資源や畜産・獣医学の状況を学び、国際社会で協力して課題解決に取り組む姿勢を養う。

教育の成果

2025年度の動物衛生学実習の授業評価では、回答した学生全員が学習目標の達成を肯定的に評価し、教員の意欲や授業満足度についても良好な評価を得た。

遺伝育種学の授業評価でも、回答した学生の多くは学生が学習目標の達成を概ね肯定的に評価し、授業満足度も良好であった。また、「分野への理解・興味・関心が深まった」とする回答が多く、専門分野への関心を高める教育効果が確認された。

また、モンゴル生命科学大学畜産学部および獣医学研究所との共同研究を通じて学術交流を推進し、講演・講習の実施や研修生受け入れによる研究交流を行った。さらに、日本の複数大学の研究者との連携も進み、分野横断的共同研究の基盤を構築した。

今後の目標

今後は、動物衛生学および遺伝育種学の教育において講義と実習を効果的に組み合わせ、学生が現場の課題を理解し自ら判断できる実践的能力の育成を目指す。特に牧場実習などの現場教育を重視し、家畜の飼育環境や衛生管理を観察・体験することで理解を深める教育を推進する。また、学問分野の進展に応じて授業内容を継続的に見直し、最新の研究成果を取り入れて教育の質向上に努める。

私は農学分野を専門としており獣医師免許を有していないため、今後は獣医学教育や獣医師国家試験への理解を深め、関連分野の教員と連携しながら教育内容の充実に取り組む。

研究教育では、学生が自ら課題を発見し探究する姿勢を育てるとともに、データを正しく理解し誠実に研究に向き合う科学的態度の育成を重視する。さらに、卒業研究の成果を学会等で発表する機会を設け、研究成果を整理し発信する能力の向上を促す。

また、モンゴルをはじめとする海外研究機関との学術交流を継続し、共同研究や学生交流を通じて国際的視野を持つ人材の育成に貢献する。あわせて外部研究資金の獲得に努め、学生が海外調査や国際共同研究に参加できる機会の拡充を目指す。

根拠資料

シラバス、講義資料、実習資料、学生アンケート